

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式  
キャリアデザイン学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～37
世 界 史	38～54	地 理	56～64
数 学	66～71		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

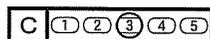
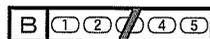
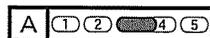
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

# (日 本 史)

〔I〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

大宝律令施行直前の大宝元年正月一日、 大極殿において盛大に元旦の儀式がとりおこなわれた。正史  はこのときの様子を、次のように誇らしげに伝えている。

天皇、大極殿に御して朝を受けたまう。その儀、正門に鳥形の幢をたて、左に日像・ ・ の幡、右に月像・ ・ の幡なり。蕃夷の使者、左右に陣列す。文物の儀、ここに備われり。

ここに見える「蕃夷の使者」とは、前年の末にわが国に来朝した  国からの使節を指しているが、ここで正史が「文物の儀、ここに備われり」と高らかに宣言しているように、この状況はまさに日本を中心とする小中華帝国の完成を意味するものであった。まもなく三十数年ぶりに任命される大規模な遣唐使も、新たに制定された大宝律令を中国に披露し、律令国家の完成を内外に誇示したのではないかとも考えられている。

問1 空欄  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下の語群ア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、オをマークせよ。

ア 藤原宮

イ 飛鳥浄御原宮

ウ 平城宮

エ 難波宮

問2 空欄  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下の語群ア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、オをマークせよ。

ア 『古事記』

イ 『日本書紀』

ウ 『続日本紀』

エ 『日本後紀』

問3 下線部 a の天皇の名を以下の語群ア～カのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、キをマークせよ。

ア 天武    イ 文武    ウ 持統    エ 元明    オ 元正    カ 聖武

問4 空欄  ～  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下の語群ア～カのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

該当するものがない場合には、キをマークせよ。なお解答順に、それぞれ東方・南方・北方・西方を守護する神獣である。

ア 玄武    イ 青龍    ウ 朱雀    エ 白虎    オ 神亀    カ 麒麟

問5 空欄  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下の語群ア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、オをマークせよ。

ア 高句麗                  イ 百濟                  ウ 渤海                  エ 新羅

問6 倭の五王の時代から、問題文の時代に至るまでの日本の東アジア世界における外交のあり方の変化を、朝鮮半島との関係に的を絞って、100字以内で説明せよ。句読点は1字分とし、算用数字は1マスに2文字記入してよい。

下書き用(横書き, 20字×5行=100字)→


## 日本史

〔Ⅱ〕 つぎの文章は、ある日本史事典の「室町幕府」の項における説明からの抜粋である(ただし一部改変した)。それを読んで、下記の問いに答えよ。

### 室町幕府 むろまちばくふ

[幕政の推移] 尊氏の将軍任官は1338年8月だが、法的には1336年8月の [ a ] 天皇即位、 [ b ] 院政開始をもって幕府開創の要件は満たされている。

幕府開創期の権力構造における最大の特色は、尊氏が [ あ ]、恩賞方、 [ い ] を管轄して主従制的な支配権を掌握する一方、弟の足利直義が [ う ]、 [ え ]、安堵方、 [ お ] などを管轄して統治権的支配権を掌握し、兄弟で二元的政治を行った点である。直義の背後には王朝の本所・荘園領主の利害があり、一方、尊氏や [ か ] [ c ] のもとは、荘園制と対決を余儀なくされた急進的在地領主層の期待が集中し、この両者間に権力抗争を生じ、観応の擾乱という紛争を招いた。

その過程で [ c ] ・直義らは殺害され、二代将軍義詮の親裁権が強化されることになった。擾乱で没落した旧直義党は多く南朝方に加わったため、京都は三度南軍に占拠され、また足利一門の有力守護が相次ぎ反乱を起こすなど、尊氏死去前後の幕政は混乱をきわめたが、1362年斯波高経、1367年 [ d ] が主導して幕府を安定に導き、内乱も北軍優勢裏に小康状態を迎えた。1368年、 [ d ] が制定した [ i ] 令は、荘園に関して、有力権門と在地領主(国人)・守護権力の権益を一定程度保護するもので、室町期を通ずる土地政策の基本となった。この前後、寺社・公家などの本所領に関する裁判権は朝廷からしだいに幕府に移行し、 [ き ] が握っていた京都市中の刑事警察権は幕府 [ あ ] に移され、 [ 1 ] 銭などの臨時財産税も守護にその徴収権が付与されるなど、 [ d ] の執政は幕府権力確立のうえできわめて重大な役割と画期を有している。

三代将軍足利義満の親政が始まる南北朝末期は、細川、山名、土岐、大内らの有力守護を巧みな懐柔と挑発によって弾圧し、1392年には南朝の神器を接収して内乱を終息させ、将軍権力は比類ないまでに強化された。義満は従一位、内大臣、

左大臣、 を歴任して、形式的にも公武両権力の頂点に立つ専制君主となり、1401年の対明外交開始に当たって国書に「」と自署したのである。

【機構】 将軍の代官としてはじめ  が置かれたが、尊氏・直義両頭政治の間は訴訟機関たる  を直義が一手に掌握しており、  の立場は尊氏の代官にとどまっていた。義詮の代に将軍親裁権が強化されると  はしだいに縮小される。他方、1367年  の就任以来、 は管領と称されて、将軍幼少の間すべての政務を総攬するようになった。従来分権的であった幕府諸機関の権限が、義満と  のもとの初めて集権的に統一されたのである。1398年、畠山基国が管領に登用され、以後斯波・細川・畠山の三有力守護が交替で管領を務めたが、将軍義持の晩年より  家の一部を加えた数家の有力守護中の宿老が、重臣会議を開いて合議で重要政務を決するようになり、応仁の乱後は細川氏以外に管領を出す守護家はなくなって、管領制が形骸化していった。

鎌倉時代と同様、御家人武士の統括機関としては  があったが、観応の擾乱以降、 は  守護の機能を兼ね、南北朝末に  守護が分離してからは、洛中の刑事警察権をもつばら分掌する機関となった。 も赤松・京極以下の有力守護家が交替で歴任し、在任中は有力被官を所司代に任じ、京都の治安維持に当たった。

は財政を担当したが、その長官である執事二階堂氏(のち伊勢氏)のもとに、将軍家の家産を  する  代と、雑務沙汰と呼ばれる民事訴訟を扱う  代が置かれ、前者は蜷川氏が世襲、後者は  人の最上首が交替で補任された。 は文書管理を行い、 は摂津・町野氏ら  衆から選任されたが、15世紀に入り早くも実質を失っている。

【財政】 将軍家の直轄領として三河と畿内近国に散在する公方  が百数十カ所知られている。このほかに南北朝戦乱の過程で敵方から没収した膨大な<sup>けつ</sup>關所地<sup>しよ</sup>があり、恩賞地として勲功の将士に配分したほか、五山禅院や  衆

## 日本史

と呼ばれた親衛隊に給与され、常備軍を養うと同時に五山の経済機構から銭貨を貢献させるという、実質的直轄領の役割を果たした。14世紀末には、洛中の土倉・酒屋に対する延暦寺など寺社権門による保護を否定して、幕府による課役を定め、これを  要脚(財政事務費)の財源とした。臨時財源としては日明貿易による勘合  銭、即位・讓位などの朝廷公事や国家的行事の費用、寺社修造費用等に充てる  銭、家屋単位に課せられた  銭があるほか、都市民に有徳銭等を課した。

[幕府の性格] 室町幕府は、重臣会議の運営に象徴されるように有力守護の連合政権的色彩を帯びているが、反面將軍は専制君主として  人という官僚集団や  衆なる常備軍を保持し、守護職の補任を通じて守護を更迭することが可能であった。しかし15世紀に入ると、反乱勃発でもないかぎり守護職は世襲され、分国支配を強化した守護または守護代のなかから、幕府から自立した戦国大名へ成長する例が多く現れる。こうして戦国期の幕府は、半ば細川氏の傀儡と化した畿内政権に変質する。

(『日本史大事典』6, 平凡社)

問1 空欄  ~  にあてはまる人名を、以下の語群ア~セのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、ソをマークせよ。

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ア 光厳   | イ 亀山   | ウ 後村上  | エ 光明   |
| オ 後小松  | カ 細川頼之 | キ 細川勝元 | ク 細川重賢 |
| ケ 高師泰  | コ 高師直  | サ 高師重  | シ 大内兵衛 |
| ス 大内義隆 | セ 大内義弘 |        |        |

問2 空欄  ～  にあてはまる機関(組織)名を、以下の語群ア～セのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、ソをマークせよ。

ア 評定	イ 問注所	ウ 執事	エ 引付
オ 六波羅探題	カ 公文所	キ 侍所	ク 政所
ケ 京都守護	コ 鎮西探題	サ 検非違使庁	シ 鎌倉府
ス 鎮西奉行	セ 奥州探題		

問3 空欄  ～  にあてはまる語句を、以下の語群ア～ケのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、コをマークせよ。

ア 出挙	イ 撰	ウ 悪	エ 棟別	オ 段
カ 分一	キ 京	ク 抽分	ケ 月借	

問4 空欄  ～  にあてはまる語句を、以下の語群ア～ニのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。該当するものがない場合には、ヌをマークせよ。

ア 准三后	イ 皇太子	ウ 皇太后	エ 天皇	オ 日本国王
カ 大君	キ 守護請	ク 半済	ケ 京済	コ 大田文
サ 大和	シ 山背	ス 山城	セ 撰津	ソ 御料所
タ 天領	チ 知行国	ツ 御分国	テ 会合	ト 御伽
ナ 奉公	ニ 奉行			

## 日本史

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

あなたの通った小学校に二宮金次郎像はあったらどうか。柴ないし薪を背負い、歩きながら書物を読む少年の銅像、あるいは石像である。金次郎のように、寸暇を惜しんで勉強すれば、立派な人物になれますよ、と校長先生はある朝に説明したかもしれない。あるいは金次郎像が、夜な夜な校庭を走っている、などという学校の怪談を上級生から口伝くづてに聞かされたかもしれない。たとえ金次郎像が学校になくとも、その存在は各種メディアによって多くの人の知るところである。しかしながら、歴史上の二宮金次郎が如何なる人物であったかを知る人は少ないのではないだろうか。

二宮金次郎は、1787(天明7)年7月、相模国足柄上郡栢山村(現神奈川県小田原市)に百姓の子として生まれた。<sup>A</sup>栢山村は小田原藩領の村で、このころは  の大久保氏が治めていた。同村の天保期ごろの村高は1271石(1石≒  リットル)で、これは全国平均のおよそ  倍である。酒匂川さかわの流域に位置した栢山村は、たびたび水害に見舞われた。1791(寛政3)年、および1802(享和2)年の洪水で、金次郎の生家の田畑も荒れ地となっている。この間、1800年に実父が病没し、1802年には実母も亡くなった。数え年16歳の金次郎は伯父のもとで厄介となり、ふたりの弟は母の実家へ引き取られることとなった。洪水被害による家の没落、父母との死別、そして兄弟の離散という少年時の体験が、その後の金次郎の人格形成に与えた影響は決して少なくあるまい。

しかしながら、ほどなくして金次郎はその才覚をあらわしはじめる。捨ててあった苗を植えて米1俵余りの収穫を得る、もらった菜種を荒地に蒔き、その収穫物売って灯油を得るなどして、蓄財に努め、自家の再興に取り組むのである。こうして1810(文化7)年には1町歩≒  ヘクタールを越す田畑を所持するまでになった。

そのような「百姓」金次郎の転機は、翌1811年からの小田原城下での武家奉公に求められる。1812年には家老の服部家へ奉公にあがり、やがてその類い希なる理財能力を見出され家政再建に取り組むことになった。耕作に出精した人物として、藩主より表彰もされた。こうして藩の中枢部に金次郎の能力が知れわたっていく

のである。

1821(文政4)年、藩主家の分家である旗本宇津家の知行所下野国桜町領(現栃木県真岡市)の復興が金次郎へ命じられた。ときに金次郎は35歳、その理財能力を買われて、4000石の知行地の建て直しが任されたのである。このころ、北関東では激しい農村荒廃が進んでいた。無宿人や博徒らもひろく横行し、これらに対処すべく幕府はすでに1805年に<sup>F</sup>関東取締出役(通称八州廻り)<sup>H</sup>を設けていた。1827年には寄場組合を組織させてもいる。

金次郎は15年もの間、桜町領の復興に尽力した。こうしたなかで、報徳仕法と呼ばれる金次郎独自の農村再建策が形作られてゆく。後にそれは、至誠、勤勞、分度、推讓という言葉に収斂することとなる。誠実なころをもつて、仕事に励むことを前提に、分限に応じた生活を営み、余剰を自己(子孫)そして他者へ譲ってゆくというのが仕法の骨子である。収入に応じた支出を設定し、儉約ないし勤勞によって余剰を生んでいくこと。それは村人のみならず領主をも規制するものであった。

桜町領の復興が成り、領主宇津家へ知行所が引き渡されたのは1837(天保8)年のことである。金次郎による仕法の成功をうけて、他藩からも仕法実施の依頼が相次ぐこととなる。1842年には幕府に召し抱えられて、幕府領の復興にも力を尽くすこととなった。勿論、これは前年の徳川 J の死去を受けて、本格的に改革をスタートさせた老中首座水野忠邦も承知のうえである。金次郎は、この採用を機に実名を尊徳と改めた。

金次郎と同じように、同時代にあって農村復興に努めた人物に大原幽学がいる。幽学の場合、彼の提唱した K が農村に広まると、かえって幕府から嫌疑をうけ、ついには自殺に追い込まれてしまう。金次郎の仕法が、紆余曲折あるにしても、幕府へ認められたのと比べると、いかにも対照的である。

1856(安政3)年、金次郎は幕府に命じられて日光神領の復興に取り組むさなか L に亡くなった。享年70。

明治期以降、金次郎は修身の教科書に、模範的な帝国小臣民として登場することとなる。それは虚像を含むものであったが、国民にひろく浸透してゆく。冒頭の金次郎像はそうしたなかで、業者が学校に売り込んでいったものなのである。

## 日本史

問1 下線部Aの年に起こった出来事として、もっとも適切なものを、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 江戸で打ちこわし発生                      イ 浅間山の大噴火  
ウ 公事方御定書の制定                      エ 田沼意知の刺殺  
オ 近藤重蔵の択捉島探査

問2 空欄  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 三卿              イ 家門              ウ 親藩              エ 外様              オ 譜代

問3 空欄  にあてはまるもっとも適切な数字を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1.8              イ 18              ウ 180              エ 1,800              オ 18,000

問4 空欄  にあてはまるもっとも適切な数字を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 0.5              イ 1.5              ウ 3              エ 6              オ 10

問5 空欄  にあてはまるもっとも適切な数字を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1              イ 10              ウ 100              エ 1,000              オ 10,000

問6 下線部Fの理由として適切でないものを、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 過重な年貢諸役負担  
イ 農民の都市への流出  
ウ 飢饉による餓死者・病死者の発生  
エ 出生率の増加による農村人口の増大  
オ 村請制による年貢諸役の納入

問7 下線部Gの説明として、誤っているものを、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 所領の錯綜を一因として設置された。
- イ 老中の直属であった。
- ウ 代官の手付・手代のなかから選ばれた。
- エ 水戸藩領へは権限が及ばなかった。
- オ 最初に8名が任じられた。

問8 下線部Hに含まれない国名として、もっとも適切なものを、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 武蔵      イ 伊豆      ウ 常陸      エ 安房      オ 相模

問9 下線部Iの年に起こった出来事として、もっとも適切なものを、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア フェートン号事件      イ 蛮社の獄      ウ 大塩平八郎の乱
- エ シーボルト事件      オ 天保の薪水給与令

問10 空欄  にあてはまるもっとも適切な人名を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 家慶      イ 家治      ウ 家重      エ 治郷      オ 家斉

問11 空欄  にあてはまるもっとも適切な語句を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 新学      イ 心学      ウ 水戸学      エ 性学      オ 国学

問12 下線部Lの年の老中在職者として、もっとも適切な人名を、以下のア～オのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 安藤信正      イ 阿部正弘      ウ 板倉勝静
- エ 井伊直弼      オ 堀田正俊

## 日本史

〔IV〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

徳川幕藩体制の時代、日本海の隠岐島は松江藩が治めており、島には同藩の陣屋や遠見番が置かれていた。幕末になると、隠岐の近海にも外国船がたびたび出現して島も緊張に包まれた。島民は万一の場合に備えて文武館の設立を願い出たが、松江藩は「文武研究は士格以上の為すべき所にして、汝等百姓の議すべき事にあらず」などと理由をつけて却下した。この対応を容認できない島民たちは、松江藩の郡代を追放し、会議所、周旋方、文事方頭取、軍事方頭取、兵糧方などの機構をそなえた島民の組織をつくり、ついに1868年3月、自治を宣言した。この島民自治は、維新政府により容認されるものの、徐々に骨抜きにされていく。そして1869年、こんどは島を廢仏毀釈の嵐がおそうこととなった(松本健一『日本の近代1——開国・維新 1853～1871』)。

また西南戦争の際には熊本県で、まず西郷の力を借りて政府を倒すほかないと考え、薩軍にくみした民権派の「協同隊」が、熊本県の山鹿に「民政」をしいた。1877年3月、東京遊学中に中江兆民の仏学塾で学んだこともある隊長の宮崎八郎らは、人々の歓迎をうけながら同地に入ると、自由民権の考えに基づき「人民を集めて自治政の要旨を説明」し、「普通選挙」をもって「人民総代」を選ばせたとされる。協同隊が山鹿を離れた3月下旬に自治政は終焉したとみられているが、その間、薩軍や協同隊の後方支援を受け持つ行政府として機能したと考えられている。短い期間ではあったが自治政のしかれた背景として、山鹿や隣接する町では西南戦争に先立って、民権派が区戸長公選運動などを指揮していたことがあげられる(猪飼隆明『西南戦争 戦争の大義と動員される民衆』)。

隠岐島や山鹿で行われた自治の試みに類似した例は、第二次世界大戦の敗戦にともなう大日本帝国の瓦解から対日占領体制確立までの間にも存在したと伝えられている。

1945年3月頃から米軍による爆撃が激しくなっていた沖縄県八重山地方の石垣島では、住民の過半が墓地や洞窟などへ避難し、6月になると島に駐屯する日本軍の命令で、マラリア有病地である山岳地帯などへ避難させられた。その頃までに16歳以上60歳までの男子は徴用され、耕作もままならないが故の食糧不足、諸

物資の欠乏、物価の暴騰、盗みの横行という有様となった。官公庁は3月以来機能を失っていた。このような無政府状態に対して、速やかな社会秩序の回復などを目指す——元県会議員、元小学校長、僧侶、農業従事者、新聞社社長などの——有志が会合を重ねる。そして12月、郡民大会が開催され、「人民による人民のための」政治機構として「八重山自治会」が満場一致で誕生した<sup>i</sup>。自治会は人心の安定、治安の確保、引揚者の帰還促進、マラリア対策、闇物資対策を当面の課題に定め活動を開始した。しかし、沖縄本島から遠く離れた石垣島にも米軍が上陸し、行政をしくと、八重山群島は日本政府の統治権から離れるとともに、自治会も活動停止状態となった。そして1946年1月、八重山自治会は解散した(古川純『八重山共和国』について——沖縄・八重山占領史研究の一こま——)。

八重山自治会の解散後まもなく出された連合国軍最高司令官覚書は、特定の地域を日本の行政から分離するものであった。これによって日本の行政から分離された地域の一つに、伊豆大島があった。伊豆諸島のなかでも東京に近く覚書の内容がいち速く伝わった大島では、まず島の主要人物たちが対応に動き出した。そして、連合国軍総司令部(GHQ)の駐屯隊長が島民に対し、今後は日本政府の指揮監督を受けることなく独自の行政が執行されること、当分のあいだ米側の行政機関は設置せず、駐屯隊長は命令することなく単に監督することなどを伝えると、島の「有志」が新大島の建設を目的とする団体創設のための準備委員会を選出し、すこし遅れて大島島民会も設立された(1946年2月)。その島民会が——おそらくGHQと相互交流しながら——いわば憲法として作成したのが「大島大誓言」であった。島民は「安寧幸福ノ確保増進」と「万邦和平」に貢献すべきこと、「大島ノ統治権ハ島民ニ在」ることなどが定められていた。このように伊豆大島では、島民が島民の団体を中心に島民で作った憲法による統治を行おうとしていた。しかし、その後(3月)、GHQが伊豆諸島の<sup>m</sup>分離を解除したため、「大島大誓言」のことは忘れ去られていき、自治は「幻」に終わる(榎澤幸広「伊豆大島独立構想と1946年暫定憲法」)。

これら四つの事例は、いずれも短い間ではあったが、体制が崩壊しても自ら苦境を乗り越えていこうとする人々の歴史があったことを示している。

## 日本史

問1 下線部 a の藩医の子で、のちの民法典論争においてフランスに範をとった民法の導入を主張した法学者として正しい人物の名を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 穂積八束      イ 川島武宜      ウ 梅謙次郎      エ 宮沢俊義

問2 下線部 b の年のできごととして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 華族・士族・平民の別が設けられた。  
イ 廃藩置県が断行された。  
ウ 学制が実施された。  
エ 徴兵令が公布された。

問3 下線部 c は仏教界の覚醒をうながすことにもなったが、それに尽力した人物として正しい人物の名を、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 黒住宗忠      イ 出口王仁三郎  
ウ 川手文治郎      エ 島地黙雷

問4 下線部 d に関連して、明治期の政府への抵抗を発生年代順に並べたものとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 西南戦争－秩父事件－ワツパ騒動－敬神党(神風連)の乱  
イ ワツパ騒動－敬神党(神風連)の乱－西南戦争－秩父事件  
ウ 敬神党(神風連)の乱－西南戦争－秩父事件－ワツパ騒動  
エ 秩父事件－ワツパ騒動－敬神党(神風連)の乱－西南戦争

問5 下線部 e の人物についての説明として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 著書で、民権には「恩賜の民権」と「回復(恢復)の民権」があるとした。

イ 弟子の堺利彦は、無政府主義をとらえ、大逆事件に加わり刑死した。

ウ フランスの啓蒙思想家ヴォルテールの著書を翻訳し、『民約訳解』として日本に紹介した。

エ 衆議院議員にもなり、第一議会では土佐派の一員として予算成立に尽力した。

問6 下線部 f に関連して、地方制度にある程度の民意を組み入れられるようになったとされる、いわゆる地方三新法の組み合わせとして正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 戸籍法－大区小区令－府県会規則

イ 郡区町村編制法－府県会法－地方税法

ウ 大区小区令－郡区町村編制法－府県会規則

エ 郡区町村編制法－府県会規則－地方税規則

問7 下線部 g について正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 対日占領・管理機構としてワシントンに対日理事会が、東京に極東委員会が置かれた。

イ 降伏文書調印は、いわゆる日本本土でも沖縄でも同じ日に行われた。

ウ 占領軍は、本土では日本政府を通じての間接的な占領統治を、奄美・小笠原・沖縄の各諸島では直接軍政を行った。

エ 占領の全期間を通じてダグラス・マッカーサーが占領軍の最高司令官を務めた。

## 日本史

問8 下線部 h に関連する記述として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1968年に米国から日本に施政権が返還された。
- イ いわゆる琉球処分とともに人頭税が廃止された。
- ウ 日本政府と清国政府のあいだで、米国の調停により、宮古とともに清国へ割譲する案(分島案)が交渉されたが、結局はまとまらなかった。
- エ 漂流した島民が尖閣諸島で殺害されたことを理由に、明治政府は台湾に出兵した。

問9 下線部 i に関連して、「其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ」宣言するとの文言が存在したことから、政治問題となった取り決めを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 日英通商航海条約
- イ 日独防共協定
- ウ 日満議定書
- エ 不戦条約

問10 下線部 j に関して、降伏の瞬間から天皇および日本政府の国家統治の権限は連合国軍最高司令官のもとに従属するとした文書として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア カイロ宣言
- イ バーンズ回答
- ウ ヤルタ秘密協定
- エ ハル・ノート

問11 下線部kに関連して、対日占領期のいわゆる五大改革の内容として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 婦人参政権の付与－労働組合の結成奨励－政治犯の即時釈放－秘密検察などの廃止－経済機構の民主化
- イ 婦人参政権の付与－労働組合の結成奨励－超国家主義者の除去－秘密検察などの廃止－経済機構の民主化
- ウ 婦人参政権の付与－労働組合の結成奨励－農地改革－秘密検察などの廃止－経済機構の民主化
- エ 婦人参政権の付与－労働組合の結成奨励－教育制度の自由主義的改革－秘密検察などの廃止－経済機構の民主化

問12 下線部lより後の出来事として誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 極東国際軍事裁判(東京裁判)開廷
- イ 社会党首班内閣の成立
- ウ 天皇の人間宣言発表
- エ 労働基準法の制定

問13 下線部mに関連して、日本国憲法についての説明として正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア GHQが草案作成段階で参照したのは専ら諸外国の憲法であった。
- イ 日本国憲法制定は手続き上、大日本帝国憲法の改正という形式をとった。
- ウ 日本国憲法案は帝国議会における審議過程で追加・修正されていない。
- エ 日本国憲法の公布日は神武天皇の即位日とされる日であった。